

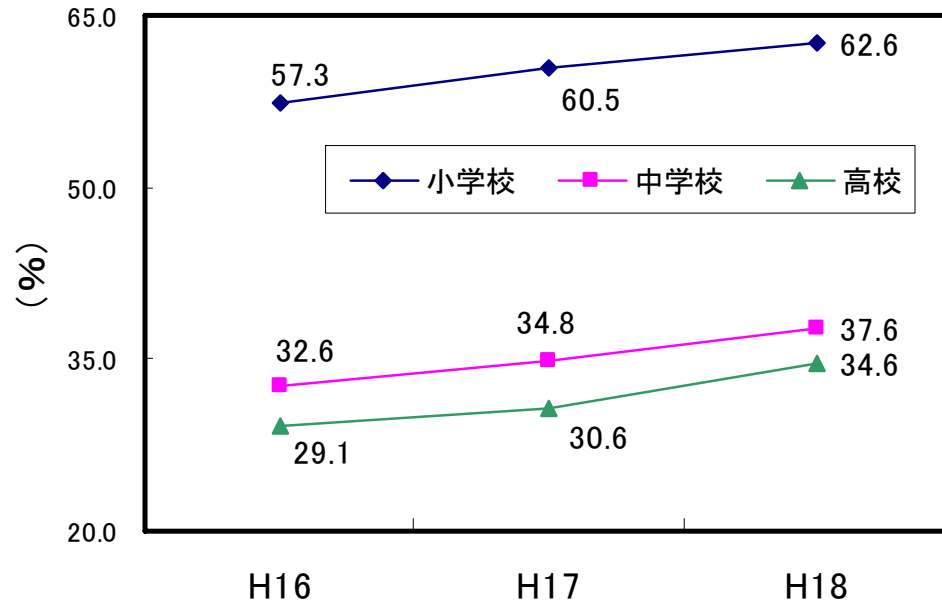
学校と公共図書館との連携状況等について (参考資料)

平成19年10月23日(火)

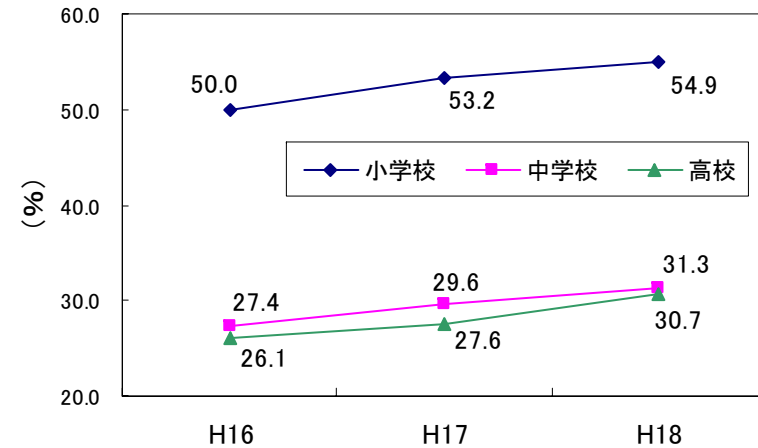
子どもの読書サポーターズ会議

学校と公共図書館との連携状況について①

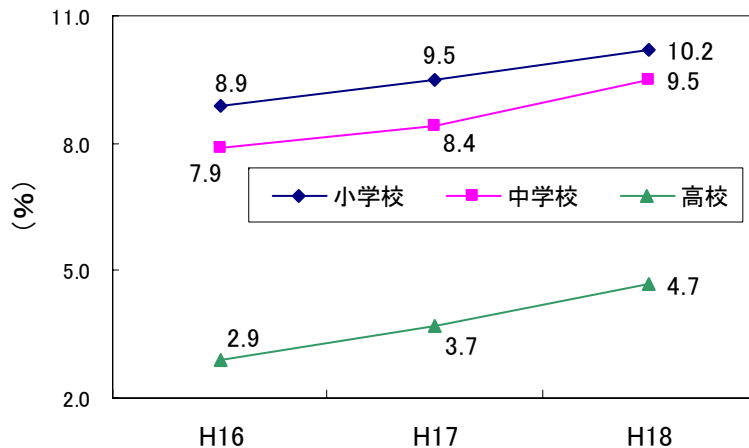
公共図書館と連携を実施している学校の割合



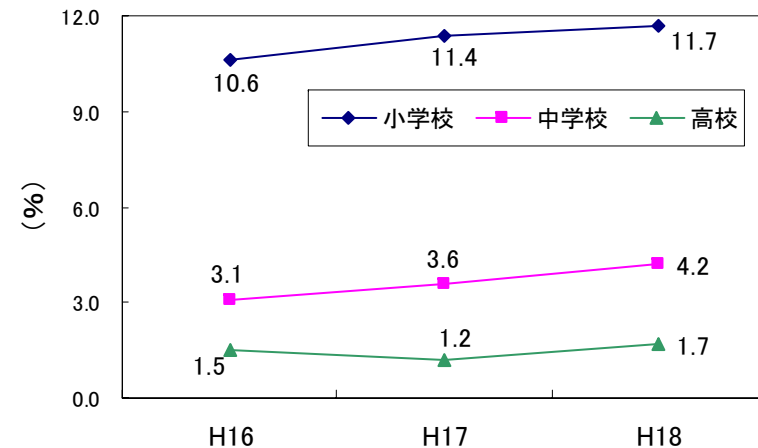
【うち、公共図書館資料の貸出を受けている学校】



【うち、公共図書館と定期的な連絡会を実施している学校】



【うち、公共図書館司書等による訪問を受けている学校】

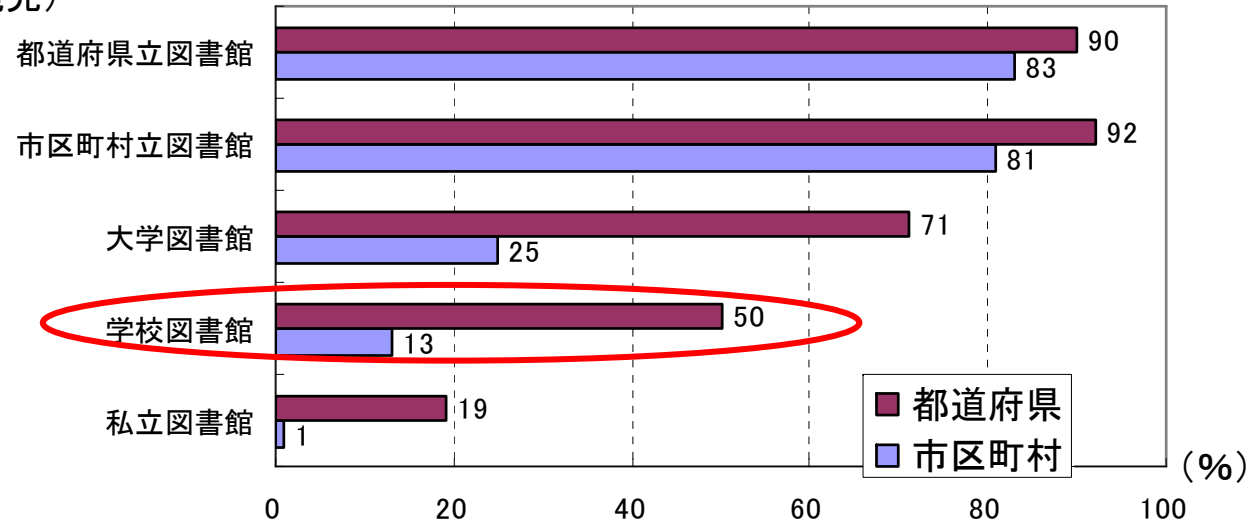


(文部科学省「平成18年度学校図書館の現状に関する調査」より)

学校と公共図書館との連携状況について②

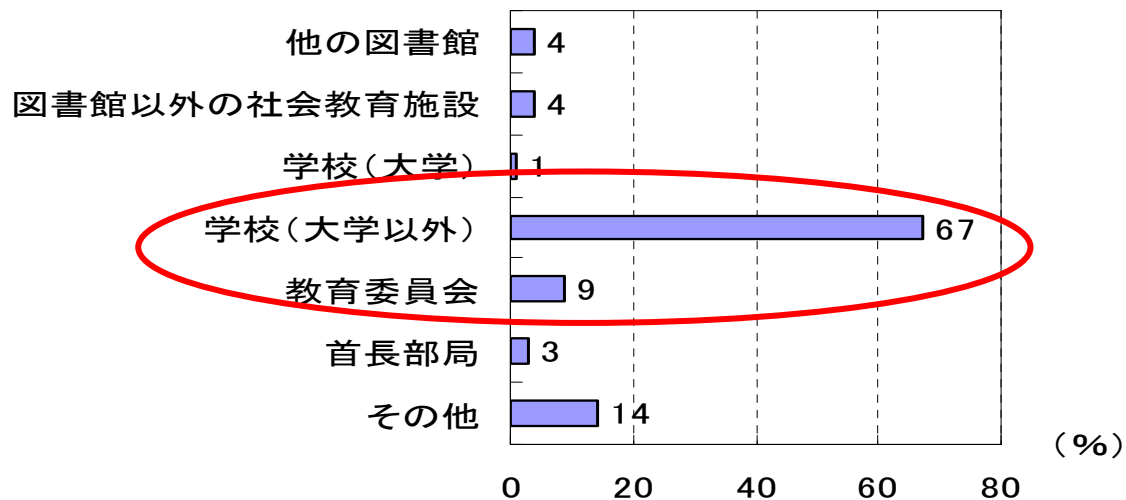
【相互貸借を実施した公立図書館の割合】

(実施先)



※グラフの見方;
「市区町村立図書館」に対し本を貸し出した「都道府県立図書館」が92%。
「学校図書館」に対し本を貸し出した「市区町村立図書館」が13%。

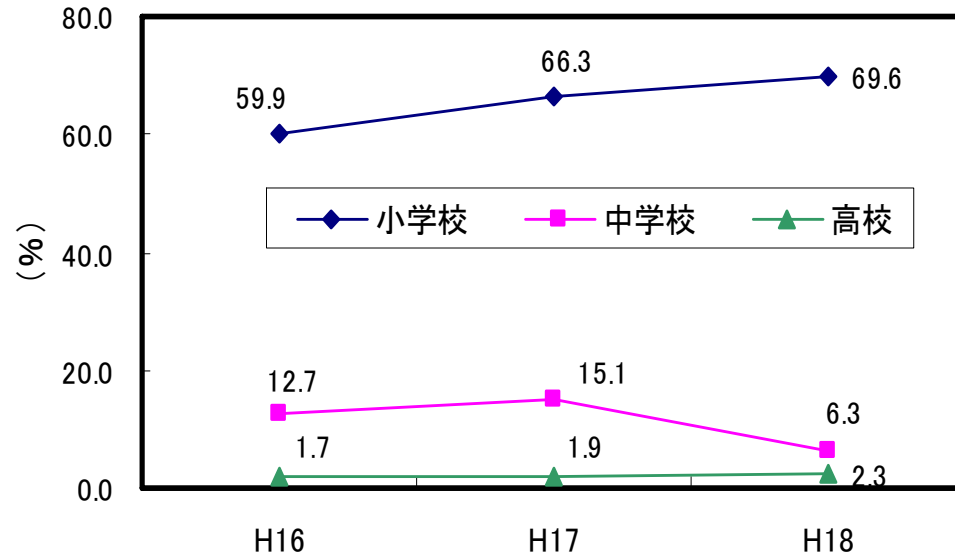
【関係機関と共催事業を実施した公立図書館の割合】



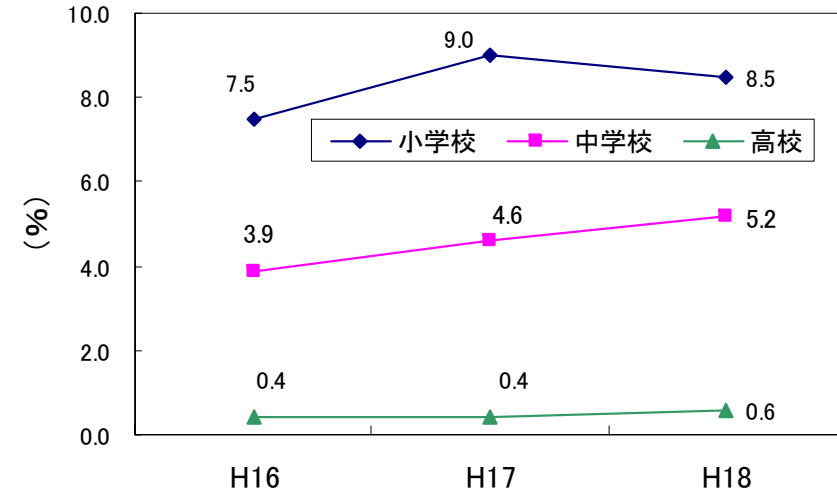
(文部科学省「平成17年度社会教育調査」より)

学校図書館におけるボランティアの活用状況について

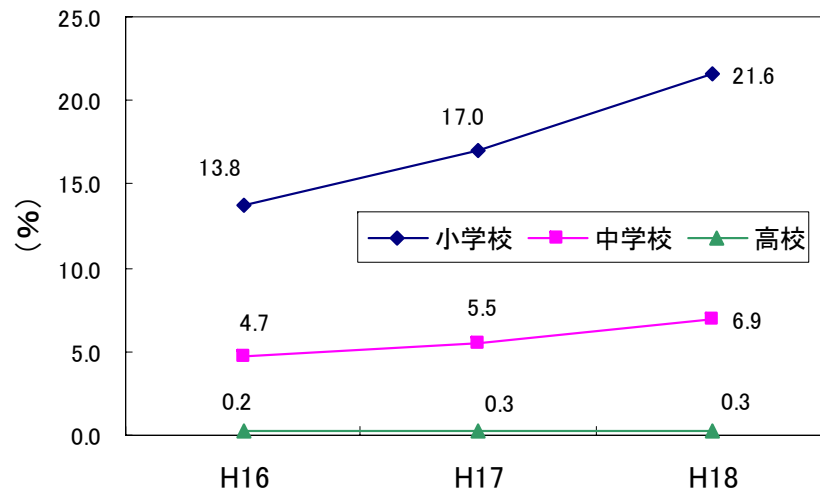
ボランティアを活用している学校の割合



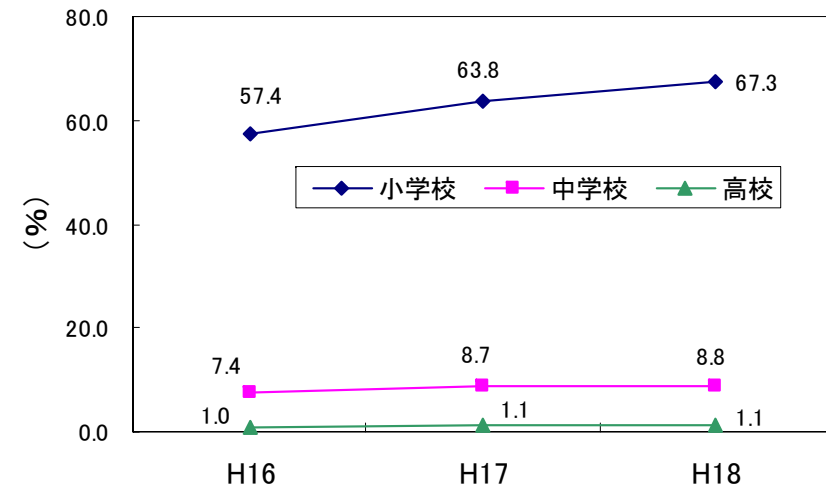
【うち、配架や貸出・返却業務等、学校図書館運営の支援に携わっている学校】



【うち、書架見出し、飾り付け等施設の整備に携わっている学校】



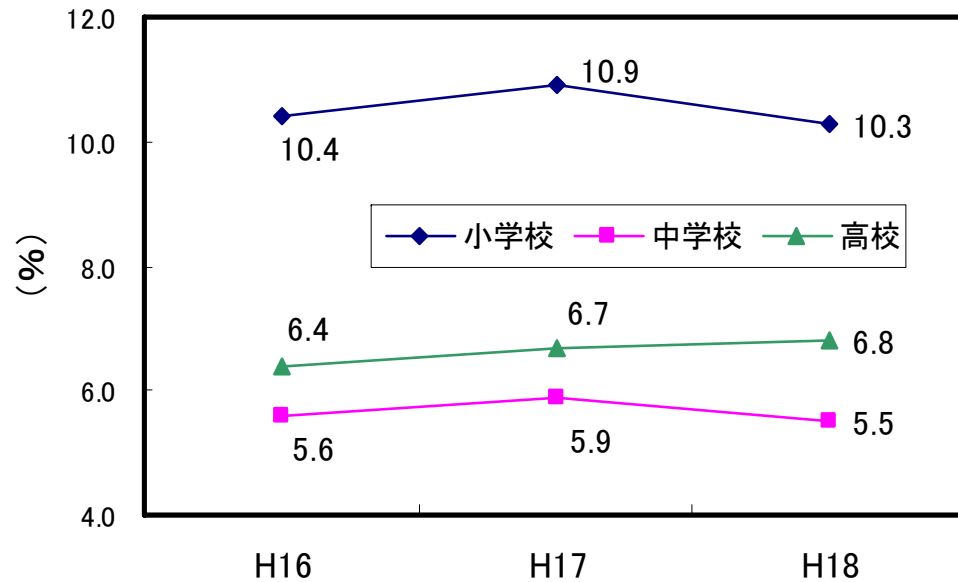
【うち、読み聞かせ、ブックトーク等読書活動の支援に携わっている学校】



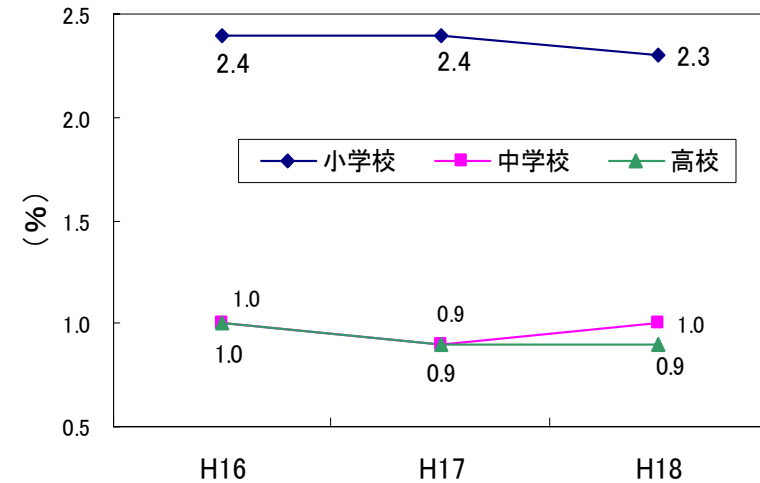
(文部科学省「平成18年度学校図書館の現状に関する調査」より)

学校図書館の地域への開放状況について

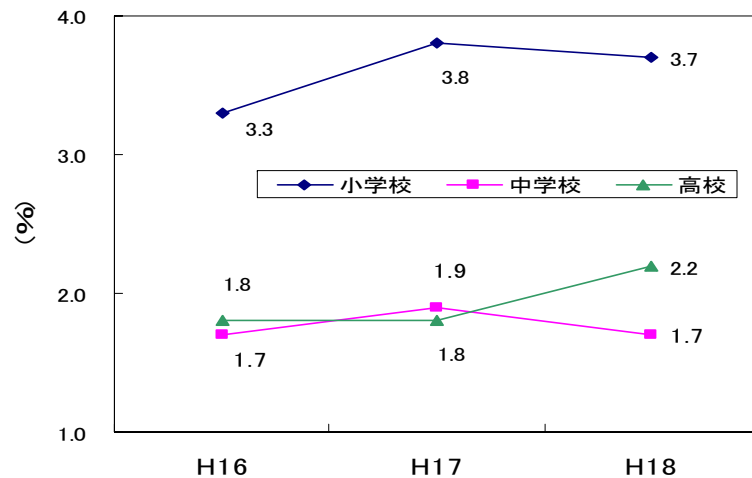
図書館を地域に開放している学校の割合



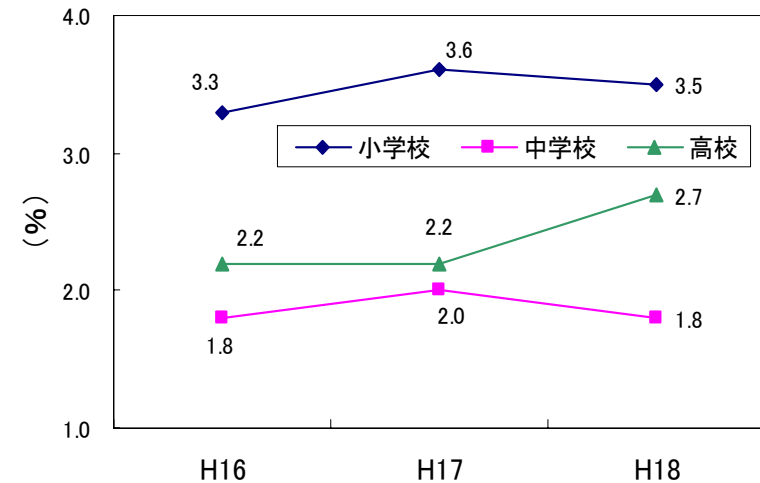
【うち、土・日・祝のいずれかに開放している学校】



【うち、放課後に開放している学校】



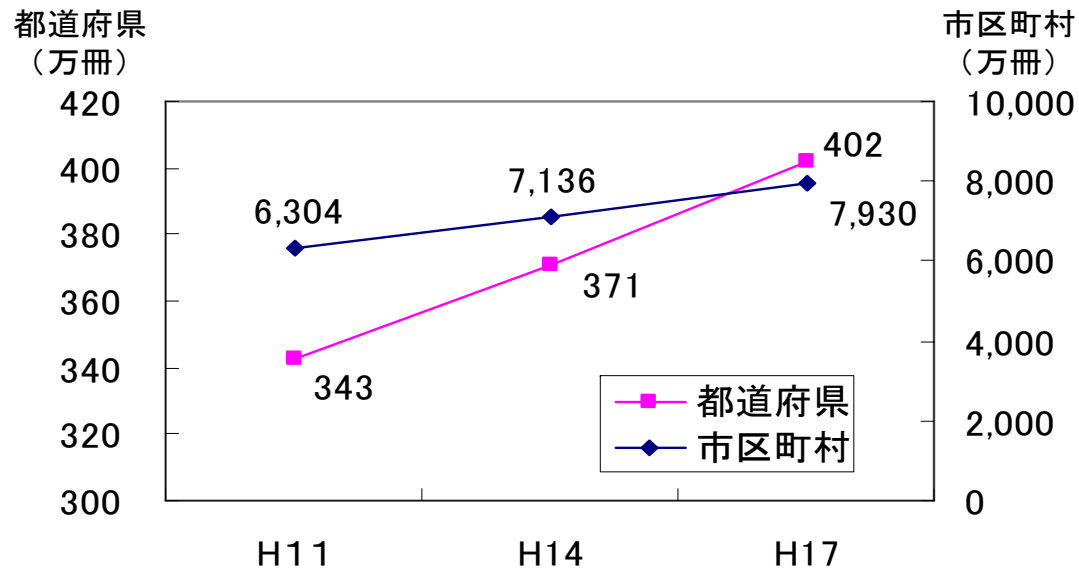
【うち、授業を行っている時間帯に開放している学校】



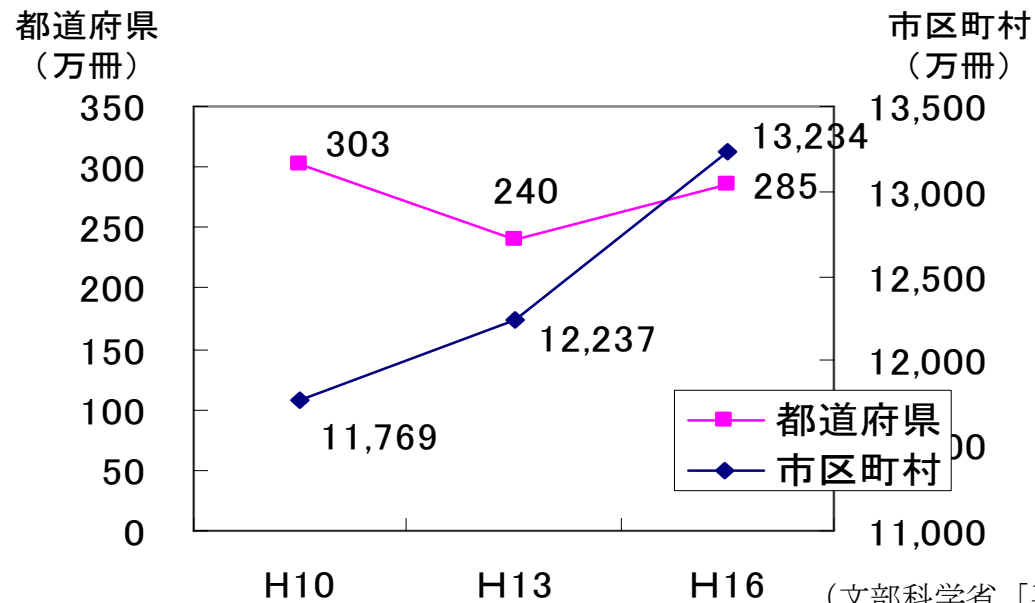
(文部科学省「平成18年度学校図書館の現状に関する調査」より)

公共図書館における児童向けサービスの状況について①

【公立図書館における児童用図書の蔵書冊数】



【公立図書館における児童への貸出冊数】

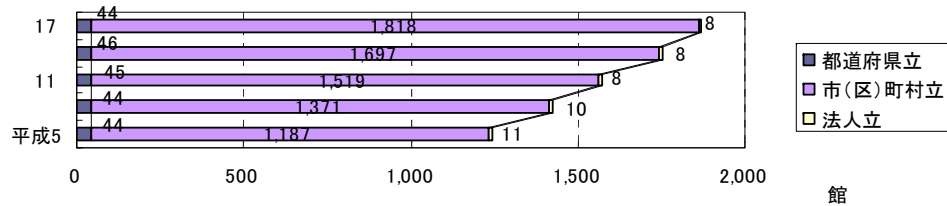


(文部科学省「平成17年度社会教育調査」より)

公共図書館における児童向けサービスの状況について②

【児童向け図書館サービスの状況】

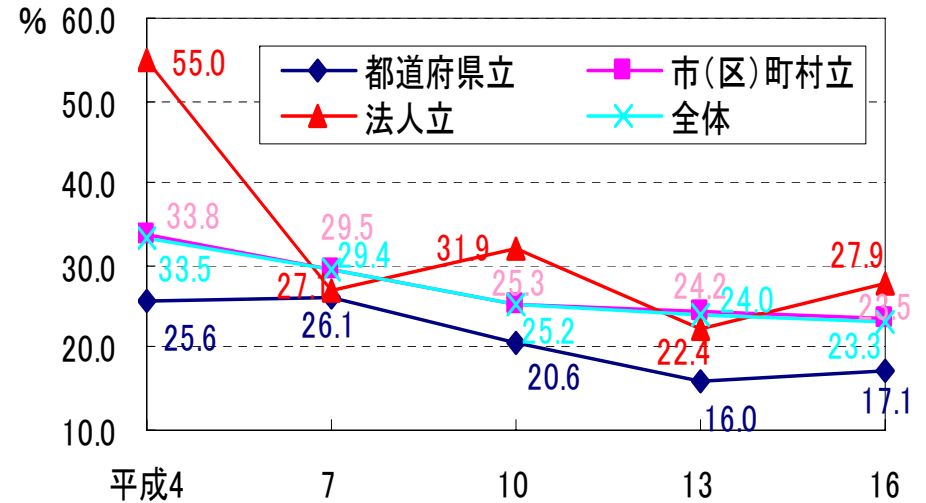
①児童室を置く図書館数の推移



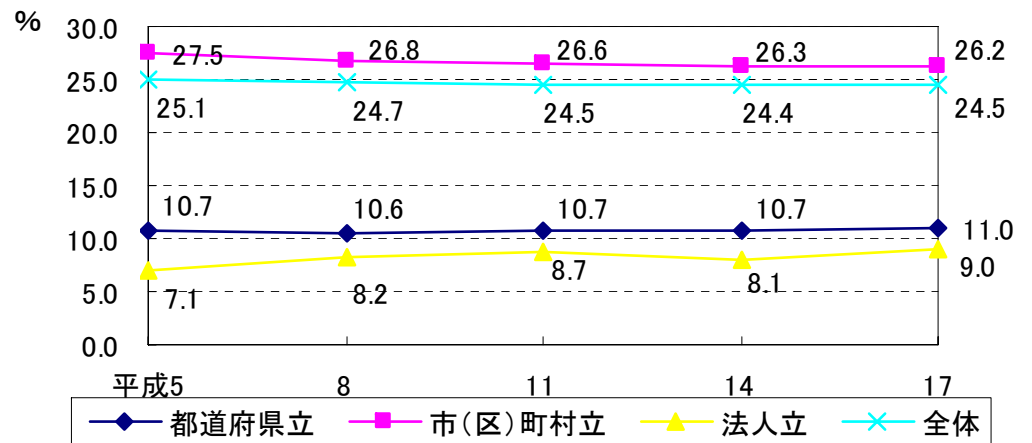
区分	平成5	8	11	14	17
合計	1,242	1,425	1,572	1,751	1,870
設置率(%)	57.2	59.4	60.6	63.9	62.8

【設置率=児童室を置く図書館数の合計/図書館数×100】

②図書の貸出冊数に占める児童用図書の割合



③蔵書に占める児童用図書数の割合



(文部科学省「平成17年度社会教育調査」より)

【参考】これからの図書館像－地域を支える情報拠点をめざして－（抜粋） （平成18年3月 これからの図書館の在り方検討協力者会議）

2. これからの図書館サービスに求められる新たな視点

（6）児童・青少年サービスの充実

子どもの読書離れを防ぎ、子どもの読書を盛んにするため、学校との連携を図りつつ、図書館の児童サービスを充実することが必要である。

平成15年（2003年）7月にOECD（経済協力開発機構）が実施したPISA調査（生徒の学習到達度調査）によれば、我が国の15歳児の読解力（自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力）は、世界第14位で、前回（2000年）順位8位から大きく低下し、点数はOECD平均程度まで低下している。

読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。また、読書を通じて、読む力及び書く力並びにこれらの力を基礎とする言語に関する能力を涵養することができる。未来を担う子ども達がこういった力を身につけることは、我が国の継続的な発展のために大変重要である。

文部科学省が実施した調査によれば、子どもの読書活動について、保護者が子どもに「家に本をたくさん置く」「図書館へ連れて行く」等の支援をしている場合、それらの支援をしていない場合と比較して、本を読むことが好きと回答した児童・生徒の割合が5パーセント以上高くなっている。また、子どもの読書活動を推進するために必要なこととして、地域では「公共図書館における児童コーナーの設置や児童書の充実」、家庭では「本のことについて話をする」、「図書館へ連れて行く」等が多くあげられた。

なお、前述の「生徒の学習到達度調査」で読解力が第1位のフィンランドでは、読書を積極的に推進しており、人口当たりの図書館数が多く、図書館利用率が非常に高いと言われている。

青少年に対しては、これまでヤングアダルトサービスが行われてきたが、このサービスを普及させるとともに、不登校などの問題を抱えた青少年に対しても、地域全体の取組の中で図書館として必要な支援を行っていく必要がある。読書離れが進む中学生や高校生への対応として、図書館で本に関する案内や助言が行われることが望ましい。また、読書会の開催など本をめぐる意見交換の場を提供することも効果的である。

児童・青少年サービスを効果のあるものとするためには、PTAや子ども会、児童会等子どもの読書活動を推進する団体・グループやボランティアとの連携が必要であり、図書館では、それらを対象とした研修会を実施することも必要である。

（8）学校との連携・協力

子どもの読書活動や学習活動を推進する上で学校図書館の活用が進んでいるが、図書館は、こうした学校図書館の活用が進むよう学校図書館への支援を積極的に行う必要がある。

具体的には、学校からの依頼に応じて、一定量の図書を長期的に貸し出したりレファレンスサービスを行うほか、学校を訪問してお話会や読み聞かせを行ったり調べ学習を支援するなどの協力方法が考えられる。また、司書教諭、学校図書館の業務を行う職員への研修への支援や情報提供も必要である。

図書館が学校からの期待に応えていくことは、教育委員会における図書館の存在意義の理解の促進を図る上でも重要である。